



NAMAZU BIYORI

NO.15



今号の総務人

Naoya Mishina

三科 尚也 | 鯨組大工・管理建築士

鳶職人として働きながら、大学の建築学科で設計を学んだ。大学卒業後はアトリエ系建築設計事務所で設計の仕事に従事、管理建築士の資格を得る。その後鯨組に入社し、大工の道を志す。

おじいちゃんの建てた家

小さい頃、母親が「おじいちゃんが家を建てたのよ」と言ったのを、おじいちゃん自身が手を動かして作ったのだと勘違いしてたんです。「どうやって建てたんだ?!おじいちゃんすげーな!!」と。将来の仕事について真剣に考えた時に、そのエピソードを思い出したんです。家づくりを仕事にしたいなって。

大工になりたい

「大工になりたい」と思っても、どこに行けばいいのかわからなくて、とりあえず職安に行っただんです。ところが、大工の仕事がない。そのうち職安の人が面倒くさくなったんでしょね「鳶もいいですよ」と。俺もとうとう面倒になって、「鳶でいいや」と思うようになりました。



鳶の世界へ

鳶という高いところで鉄骨を組立てているイメージを想像していたのですが、最初についた現場には更地に平らなコンクリートがありました。あれ?高層の建物が無い…と。私が入ったのは「町場鳶」の世界だったんです。鳶

には建築現場の足場を作る「足場鳶」や、建物の骨組みを作る「鉄骨鳶」など様々な種類があります。その中でも「町場鳶」は住宅の基礎、木造建方、外構、足場、解体等、住宅に関わることを仕事にしています。

設計の世界へ

鳶として現場で図面を見ながら仕事をしていく中で、自分で設計したいと思うようになってきました。しかし、設計事務所は自分なんか雇ってくれるはずがない…。とりあえず何か行動しなくてはと思い、現場で知り合った大工さんのところで働くようになりました。しかし、そこでは考えていたような住宅のデザインの仕事はできないことに気が付きました。これは大学の建築学科で学び直すしか無いなと。そうして1年大工修行し、学費を自分で稼ぐために鳶をししながら、建築学科を卒業しました。卒業後はアトリエ系建築設計事務所設計の仕事をし、管理建築士の資格を取りました。



葛藤

その頃、建築家を志していた自分にはある悩みがありました。現場あがりでない他の設計者と比べて、自分は建築に対する考え方、感覚が違うなど。なんとなく現場経験に劣等感を感じていたのか、違いを感じていました。そんな時に、東日本大震災が起こりました。家が流され、町が流された時に、建築家とよばれる人たちは何をすべきなんだろう。



建築家は何をするべきか
震災後、私は「早く仮設住宅をつくらなければ」と考えました。ちょうどその

頃、「建築家は今何をすべきか」というようなテーマで、建築家のレクチャーがあったので参加しました。レクチャーを通じてわかったことは、建築家には「何をすべき」ということが様々だ、ということです。例えばその頃、自衛隊は被災地の人を助け、メディアは被災地の状況を伝え続けました。私は「建築家の考えを知りたい」と思いました。1人の建築家は、住宅の基礎だけ残っている場所をそのままにして、基礎の中に花を植えてメモリアルな空間にしているのかと言いました。都市計画について、もっと先のことを考えている人もいました。この経験で私が思ったことは、建築家は個々の経験によって考えることが違うのだということです。個々の経験が重要で、建築家という言葉にとらわれなくても良いのだと。そうしてコンプレックスになっていた現場経験を活かせば良いと思えるように



なりました。経験を活かして働ける場所が無いかと探していた頃、知人に鯨組を紹介され、鯨組に入社することになりました。

鯨組とこれからの夢

鯨組は私の目指す理想と、同じ理想を目指している会社です。そして設計と施工の間で葛藤している同じような仲間が揃っています。なぜか今の建築業界は設計と施工が分かれていて、設計者の頭の中と、施工者の頭の中は違います。設計者と施工者の間で誤解が生じたり、喧嘩別れをしてしまったり、残念ながらそういう家をたくさん見てきました。でもそんなふうにして出来た家に住むのは幸せなんだろうかと私はいつも考えるのです。設計と施工をうまく行き来できる人がいれば、もっと良い家は作れるのではないかと。もちろん理想なので実現は難しいのですが、理想に向かって頑張ってみようと思っています。そして将来はもちろん、自分の家を自分で作るつもりです。子供の頃想像したみたいに、本当に自分の手を動かして。



(インタビュアー／馬把 真理子)



お知らせ

鯨組が要町を飛び出して、
外苑前のプリズミックギャラリーで展示会を開催します！

鯨展(なまずてん)

大工からの直接提案型の家づくりを目指す、
鯨組の今。

鯨組は創業平成21年5月25日に誕生した若い会社です。“建築家としての大工像”を実現することを目的に、大工岸本耕が立ち上げました。大工からの直接提案型の家造りを目指し、20代～30代の若手職人を中心に活動しています。発展途上でエネルギー。鯨組の“今の姿”をお見せします。

場所: プリズミックギャラリー

日時: 2014年9月3日(水) - 29日(月)

開廊時間: 10:00-18:00

日曜祝日休み 入場無料

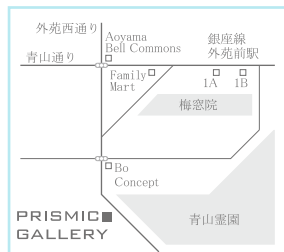
オープニングパーティ:

9月3日(水) 18:00-20:00

場所: 〒107-0062 東京都港区

南青山4-1-9

秋元南青山ビル1階



土曜日はイベント日

ギャラリー展示期間中の土曜日15:00から鯨組の職人たちがトークイベントを行います。普段は現場に出ているばかりですので、話し上手ではないかもしれませんがよろしければ足をお運びください。

予定しているトークテーマ

鯨組大工トーク

【監督・大工】田内徹郎

【大工】三科尚也

【大工見習い】櫻井藍

大工とはどんな仕事なのか。大工の人口が減っていく世の中、建築を学んだ学生がどんな経緯を経て大工になったのか。お話いたします。

鯨組監督トーク

【設計・監督】工藤順一

【監督】宮原大輔

【代表】岸本耕

“辛い”“キツイ”設計や大工に比べて地味?”“あまり良いイメージの無い監督”という職種の実際のところをお話いたします。

※トークイベントの内容は予告なく変更する場合がございます ※鯨組についての最新情報やトークイベントの詳細な日程は「鯨の小窓」をご覧ください。 ※鯨展・トークイベントについてのお問い合わせは鯨組馬把(まが) 03-5986-1081まで。

鯨組広報トーク

【代表】岸本耕

【広報】馬把真理子

【フォトグラファー】三嶋義秀
鯨組の広報活動の話や、活動の要となっているフリーペーパー「鯨日和」についてお話します。鯨日和の写真を撮影しているカメラマン三嶋義秀氏がゲストで登場します。

鯨組施主トーク

【代表】岸本耕

【施主】前田文志様

鯨組設計施工の賃貸住宅「M邸(職人と作る木の賃貸)」のオーナーにお越しいただき、鯨組との家づくりについてお話をさせていただきます。

なんてん cafe

なんてんcafeは鯨組の運営するカフェです。「食卓から暮らしを考える」を方針に、おいしいご飯とくつろぎの空間を提供しています。住宅のセールス等は一切ございませんので、ぜひ私たちの仕事と雰囲気を探察にお越し下さい。



インターネットで

鯨の小窓



を検索!

鯨組OFFICIAL WEB MAGAZINE「鯨の小窓」開いています! 鯨組のスタッフがブログ形式で日々更新中。家づくりの裏側やイベント情報など盛り沢山です! ぜひお立ち寄りください。

鯨日和編集後記

鯨展の準備に追われています。はじめての試み。どんな展示会になるのでしょうか。鯨組の職人たちの人となりや鯨組の建てた家、雰囲気や伝わると良いなと思っています。みなさまにお会いできることを楽しみにしています。

Facebookページもやっています。

鯨 facebook



で検索ください!

お問合せ

TEL : 03-5986-1081 FAX : 03-5986-1082

メール: office@yoshikawano-namazu.com

住所: 〒171-0043 東京都豊島区要町 1-10-7

アクセス: 有楽町線・副都心線「要町」駅2番出口(エレベーター) 徒歩1分